

あなたの仕事と天候の関係を分析してみませんか

～ 産業界における生産・販売管理等の取り組みをサポートします ～

「残暑が厳しい」、「冬の訪れが早い」といった例年と異なる天候は、農作物の成長をはじめ、人々の日常生活や多くの産業に影響を与えています。天候の影響への対応を行うためには、天候の影響を認識し、その影響がどの程度なのかを評価することが必要です。この一連の流れを「気候リスク管理」（図 1）と呼びますが、現状では、「気候リスク管理」が十分には行われていません。

このため、気象庁では、気象情報を活用して「気候リスク管理」が容易に行えるよう、特設ページ「気象情報を活用して気候の影響を軽減してみませんか？」を本日より公開します。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/index.html>

本ページでは、「気候リスク管理」の取り組みをサポートするための以下の主なコンテンツを掲載しています。

- ・「気候リスク管理」の基本概念とその実施手順のわかりやすい解説
- ・気象庁が一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会の協力や独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構との共同研究で実施した「気候リスク管理」の実例紹介（図 2）
- ・「気候リスク管理」の実践に必要な過去の観測・統計データや予測データ

今後も、具体的な実践事例の紹介を追加するなど、本ページを充実させ、産業界等における気候リスク管理の取り組みをサポートしていきます。



図 1 気候リスク管理の一連の流れ



図 2 気候リスク管理の実例紹介の例